
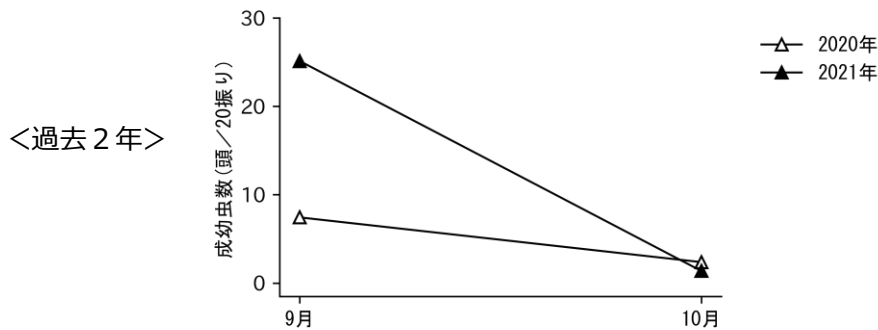
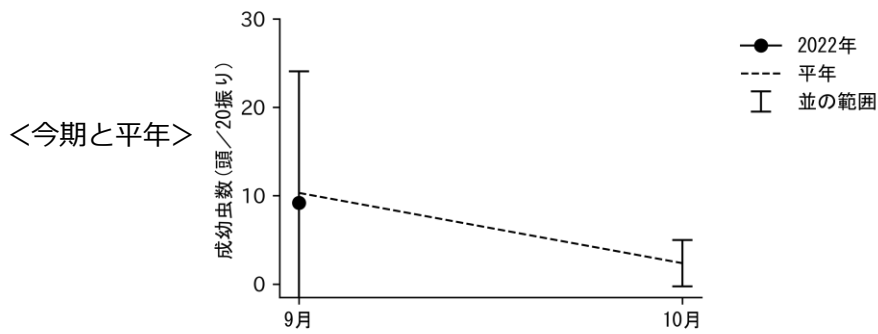


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	① セジロウンカ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↘	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率93.8%（平年：72.1%）

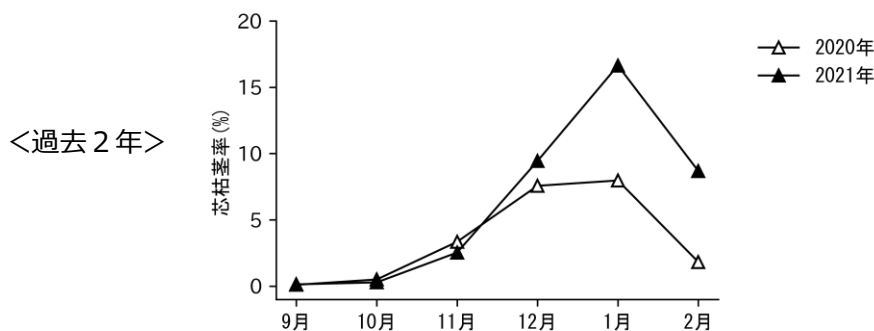
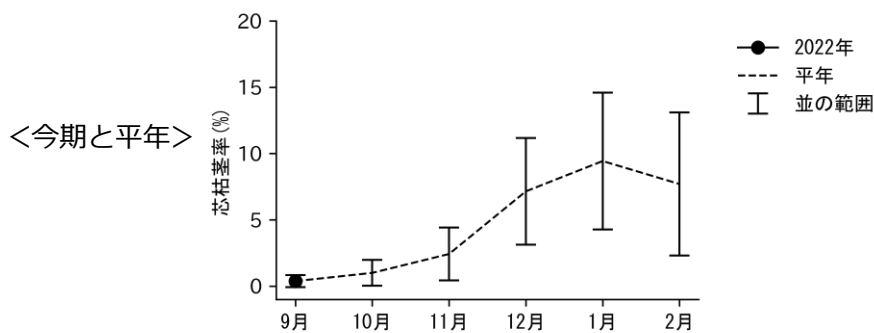
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)			並
予 報	9 月からの増減傾向			→
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類は、全てイネヨトウであった。
- ・ 発生ほ場率16.7% (平年 : 37.5%)

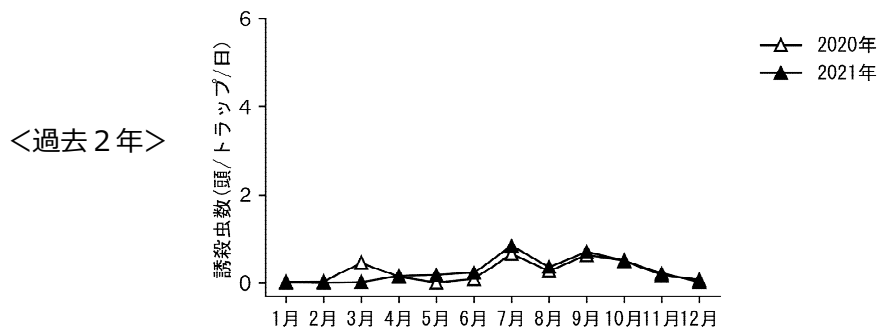
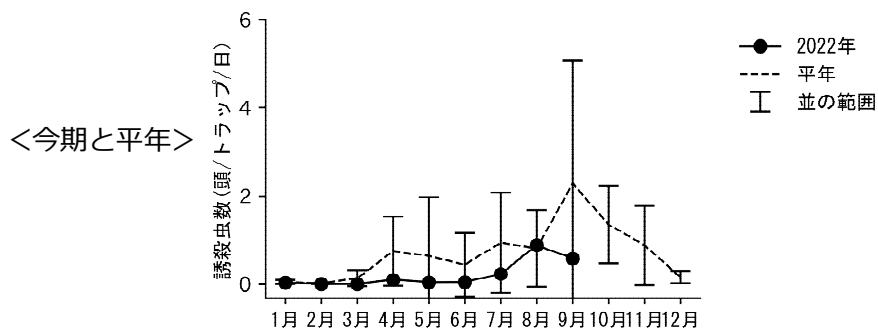
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 94.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



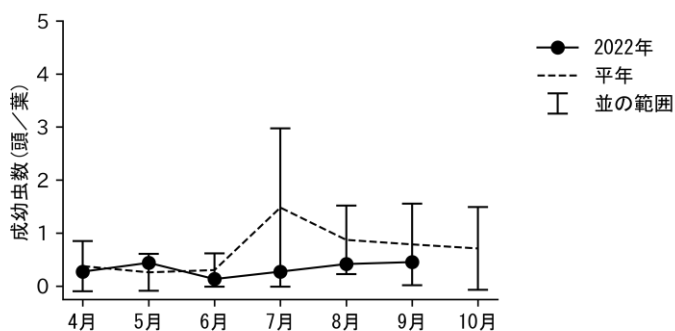
ナガエコミカンソウ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

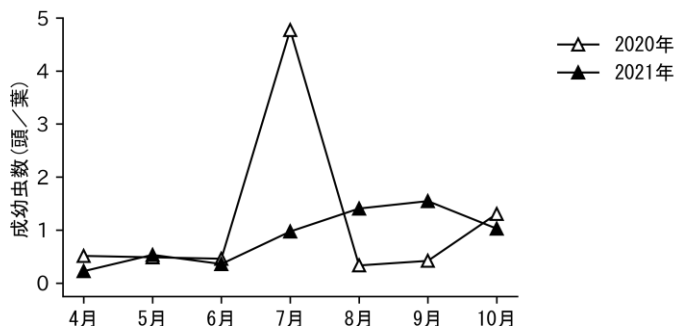
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率80.0% (平年 : 76.8%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

